声楽公開レッスン

講師：ウィリアム・マッテウッツィ 教授

2017 年 9 月 23 日 (土・祝) 14:00 開演 (13:30 開場)

会場：講堂小ホール

入場無料

通訳・ピアノ：高島　理佐

～～プログラム～～

1) 太田　友梨（学部４年／ソプラノ）　OTA Yuri

歌劇《イドメネオ》K.366 第２幕より

“たとえ、父を、祖国を、安らいを失いましても”..W.A.モーツァルト(1756-91)

Idomeneo K.366　Act II　“Se il padre perdei la patria, il riposo”　W.A.Mozart

2) 谷本　雅（修士課程１年／メゾ・ソプラノ）　TANIMOTO Miya

歌劇《ヴェルテール》第３幕より　手紙の歌

“ヴェルテールよ、この胸のうちをだれが言えましょうか”..J.マスネ(1842-1912)

Werther　Air de lettres　“Werther! Qui m’aurait dit la place que dans mon cœur”　J.Massenet

3) 秋山　和哉（修士課程 1 年／テノール）　AKIYAMA Kazuya

歌劇《ランメルモールのルチーア》第３幕より

“わが祖先の墓よ”..G.ドニゼッティ(1797-1848)

Lucia di Lammermoor　Act III　“Tombe degli avi miei”　G.Donizetti

4) 西　励央（修士課程 2 年／バリトン）　NISHI Leo

歌劇《マクベス》第４幕より

“裏切り者め！ … 憐れみも、誉れも、愛も”...G.ヴェルディ(1813-1901)

Macbeth　Act IV　“Perfidi! – Pietà, rispetto, amore”　G.Verdi

～～講師プロフィール～～

ウィリアム・マッテウッツィ（William Matteuzzi）

イタリア・ボローニャに生まれる。22歳の時に、カルーソ・コンクールで優勝後「マノン」（マスネ）のデ・グリューを歌いオペラデビューを飾る。20代にして早くもオペラの殿堂・ミラノスカラ座に登場し、「イドメネオ」（モーツァルト）「夢遊病の女」（ベッリーニ）「なりゆき泥棒」（ロッシーニ）等に出演し大成功を収める。その後も活躍の場を海外に広げ、ウィーン国立劇場での「セビリアの理髪師」「アルジェのイタリア女」「ランスへの旅」等で大成功を収めた。1986年から、毎年ロッシーニの生地ペーザロで行われている「ロッシーニ・オペラフェスティバル」に出演。ほぼ毎年、シーズンの主要演目の主役テノールを歌って絶賛を博し、短期間で同フェスティバルでの不動の地位を築きあげ、世界的に見てもロッシーニのオペラになくてはならない存在となった。特筆すべきは彼の驚異的な高音の声域で、3点Ｆすらファルセットでは無く胸声でしかも自然体で歌う事ができることから、《King of High F》と呼ばれる事となった。マッテウッツィ氏はロッシーニ歌手としての印象が強いが、音楽様式と特質の明確な把握・それを完璧に具体化し再現する実力を持ち、バロック音楽から近代作曲家の作品までレパートリーが幅広く、フランス音楽の分野にも造詣が深い。2016年にティート・スキーパ賞を受賞。またキジャーナ音楽院の講師を務める。同年、世界中の子守唄を集めた CD《La Luna Prigioniera》をリリース。2015年9月に国立音楽大学のマスタークラスに講師として招聘され、その後毎年来日している。

※ 就学前のお子様のご同伴・ご入場はご遠慮ください。
※ 都合により、曲目・出演者等が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

お問合せ：国立音楽大学演奏センター　042-535-9535　http://www.kunitachi.ac.jp/

主催/国立音楽大学